

WIN CONCORD
コンコード

NEWSLETTER

2004
vol. 14



第 二 の 故 郷

WIN コンコード 副代表 松島 啓子

長い人生の間には、誰もが幾度となく、出会いがあり、又別離の経験をするでしょう。しかし、WIN コンコードと留学生の関係においては「別離」という言葉は存在しません。

WIN コンコードは主に、和歌山大学の留学生に生活支援をしたり、お花見、キャンプ、スキー、パーティ等様々な交流を続けているボランティアグループです。このグループのメンバーになって、既に十数年になりますが、私にとってもやはり「別離」という言葉はありません。

最初に出会った留学生は、フィリピン人の女性で、とても優秀な彼女は常に勉強に励んでいましたが、私の家に来て日本料理と一緒に作ったり、時々ランチに行ったりもしました。そして、「母の日」には必ずメッセージ付のプレゼントを頂き喜んだものです。こんな交流があって、私たちはお互いの親交を深めていきました。彼女が帰国してから十数年が経過していますが今もなお連絡を取り合っています。

近年、「国際交流」という言葉が頻繁に飛び交っています。しかし、その言葉に反し、一方通行で独り

よがりの交流になっていませんか？出会いの後には別離が来て、通り一遍の交流に終わるのでは、真の国際交流にはなりません。

WIN コンコードに別離がないのは、初めて和歌山に来た留学生に対して心から愛情を持ってサポートし、滞在中に深い信頼関係を築きあげているからです。そして、常に心に思い出の灯を燃やし続け機会があれば第二の故郷日本に来たいと思ってくれるのです。

今年も数人の元留学生がこの懐かしい和歌山の地に来てくれました。又、逆に留学生に会うためにその国を訪問するメンバーもあり、このような交流が絶え間なく続けられています。だから、卒業して帰国しようとも、これからが将に交流の始まりで決して別れではないことを彼らも自負しています。

このような素晴らしい WIN コンコードのメンバーとして活動できる自分は幸せ者だと感じています。そして、これからも多くの留学生と終わりのない交流を続けると共に、ささやかながらメンバーとしての活動が続けて行きたいと考えています。



ポーランドの祝祭日

カロリナ ラドムスカ (ポーランド)

ポーランドの祝祭日はカトリック色が強いが、人々は祝祭日の訪れと共に季節の移り変わりを感じます。

国民の 90 パーセント以上がカトリック教徒であるポーランドの最大のイベントは、何と言ってもクリスマスです。イエス・キリストの降誕を祝う祭りです。24 日のクリスマス・イヴには一日中誰も肉類を口にしません。熱心な信者になると水かお茶以外は何も取りません。一番星の出る時刻、夕方 6 時にイヴの日の夕食が始まり、肉料理はなく、鯉を中心として最低 12 種類の手作りのご馳走が並びます。例えば、鯉のフライ、鯉のギリシャ風サラダ、きのこのスープ、くるみ、干し果物、それを煮て作ったジュース、そして、この日になくはない、けしの実のケーキ、チーズケーキ、チョコレートケーキ等が代表的なものです。まず、白くて薄いウエハースのような聖食が皆に配られ、お互い相手の手を少し取っては口にし、互いの健康や幸せ、成功などを祈ります。美しくセッティングされたテーブルをよく見ると、必ず人数分より一組余計に皿が用意されています。これは誰が不意に訪ねて来ても、例えその人が見知らぬ人であっても暖かく迎え入れ、ともにこの夕べを過ごすためです。

さて食事の後は、子供達が待ちに待ったプレゼントが配られます。ツリーの下には、いまや所狭しと積み上げられたサンタクロースからのプレゼントが次々に渡されています。この静かな夜に歌われるのがクリスマスキャロルです。ポーランドには本当にたくさんの美しいクリスマスキャロルがありますが、残念なことに日本では殆ど知られていません。クリスマスキャロルはもちろん教会



でも歌われます。25 日午前 0 時、教会ではキリスト降誕を祝うミサが行われます。人々は星に導かれた羊飼いのように教会に集まりクリスマスキャロルが歌われます。明けて 25 日 26 日は朝から肉料理が堂々と並びウオッカも開けられ、食卓はまた一段と賑やかになります。そして親戚や友人知人を訪ね合います。

復活祭は、十字架にかけられ亡くなって墓に葬られたキリストが三日目に復活するのを祝う祭日です。日曜日に祝われるため年によって日が移動します。祝い方は国によって異なりますがポーランドでは「復活祭（復活の主日）」、「復活祭の月曜日」が国民の祝日です。復活祭の前の約 46 日間の「四旬節」があり、キリストの復活をふさわしく迎える準備をします。また前の 1 週間は聖週間と呼ばれ様々な行事が行われます。例えば「枝の主日」とも呼ばれる日です。キリストがロバに乗ってエルサレムに入城したことの記念です。この日は棕櫚（しゅろ）を教会に持ち込み聖水で清めてもらいます。普通のものは 20 センチ程度の長さですが国内各地で棕櫚の長さを競い合う習慣があります。又この日キリストの受難に対して悲しみを表わし、教会・礼拝堂内の十字架・聖画・ご像を紫の布で覆います。復活祭の前の土曜日は亡くなったキリストを墓に葬った日です。人々は模様を描いたゆで卵やパン、ソーセージを入れた手提げかごを教会で聖水をかけて清めてもらいます。

復活の主日、キリストの復活を祝い各家庭で 10 - 12 時頃に始まる朝ご飯には豪華なご馳走が並べられます。長い禁欲時間が解け、肉類が食べ放題になります。家族が集まり食前の祈りの後、互いにゆで卵を分け合い復活祭を祝います。復活祭の月曜日には誰にでも水をかけてもいい習慣になっているため男性が好きな女性にかけたり、子供達がふざけて通行人にかけたりする光景があちこちで見られます。ポーランドでは誰もが祝祭日の訪れを待っています。



子供との触れ合いを大切に

ハスガリラ (中国内モンゴル)

2004年1月22日、留学生をサポートするボランティア団体および有功東小学校の先生たちのご配慮で、小学校の子供たちと直接触れ合う機会に恵まれました。私たちが実際に有功東小学校を訪れ感じたことは、子供たちが元気で明るく、何事にも一生懸命取り組んでいる姿が第一に挙げられます。そして、校内の美的環境や学校給食への取り組み等たくさんの特色がありました。

子供たちに少しでも多く母国の文化を紹介したいという私たちの希望で、担当の先生と相談して世界地図を見ながらモンゴルの挨拶の仕方や習慣、食べ物、子供の遊びなどを簡単に説明しました。私たちがモンゴルの文化を紹介した後で、クラスの担当の先生が「みんな、ゲストに質問しましょう。」と言うと、一斉に生徒の手が上がり、積極的に発言しました。質問は「母国語で何かしゃべって」、「あなたの国まで車でいける?」、「日本に来てからどこに行ったのか」など質問の多さ、興味津々の眼差し、豊かな想像力……。ひとつだけ困った質問を受けました。「なぜ、日本にきたのか?」一瞬、どう答えようか、迷いました。一応「人生をリセットするために」と答えました。

日本の子供は学校生活を楽しんでいるみたい。先生は優しいし、宿題も多くないし、みんなのびのびしているように思いました。子供たちが先生の話聞く時も、そんなに怖いと思っていないように感じました。みんな自分の好きなクラブに入って、小さい頃からちゃんと夢を持っていることに私はすごく感心しました。野球選手を目指す子がいるし、歌手になりたい子もいます。いずれも細やかな夢だけれど、夢さえ持っていれば、これからの人生は生きていけると思えます。私は自分のことを思い出しました。「なぜ、日本に来たのか?」そうですね、OLの仕事を辞めて日本に留学に来たのは私も夢を持っていたからではないでしょうか。子供たちの質問に答えられてよかったと思いました。

一方、校内にいろいろな動物を飼っていることに強い印象を受けました。玄関に入るとまず目に入ったのはタイ、それと廊下に名前も知らないいろいろな鳥とワンちゃん一匹がいました。幼い頃から動物と触れ合う習慣を身につけることは子供たちが他人に対して責任を持つこと、それと、優しい思いやりのある子供たちを培うための先生た

ちの心遣いでした。動物たちにさえ優しく接することができれば、大きくなっても優しい心をずっと持ち続けるだろう。

学校の給食にまた目を奪われました。「給食にはいろいろなメニューがあって、お母さんの手づくり料理よりずっと美味しいので、とても速く食べることができ、おかわりをする」と言う子供たちの話を聞いて、日本の子供たちが幸せに恵まれていると感じました。ちなみに私の国の小学校では給食制度がないので、普通、昼御飯は家に帰って食べます。また両親は共働きの場合だったら、隣の人に昼御飯を作ってもらったり、子供が自分で買って食べたりするのです。「日本のような給食制が私の国にあったらいいな。給食があるとみんな楽しい昼御飯が食べられるし、栄養バランスもよく取れるし、両親も安心して仕事ができる」と思いました。

小学校の訪問を終えて、「やっぱり子供たちはかわいし、パワフル。輝き点は世界共通。」と感心しました。今回の子供たちとの触れ合いが私にとって人生のいい経験だったと思います。

世界の子供達を喜ばせよう

オルンゴワ (中国内モンゴル)

WINの皆様にお会いしたい心は言うに及ばず、片男波の海へ飛んで行きたい気持ちです。

ほら、見てください。下の写真は私が毎日10kmの道を歩いて通った小学校の子供達です。皆様が協力してくださったフリーマーケットの収益金で140人の子供達に机と椅子を贈ることができました。スゴイでしょう!



留学生の方々も暖かい心で手をつないで世界の子供達を喜ばせるよう頑張りました。

I LOVE SKI

丁 志龍 (中国)



日本に来てからのこの一年間、美しい思い出になるものはいっぱいあり、どれが一番かわからないほどだが、どうしても選ばせざるを得ないとすれば、その答えは WIN 主催のスキー旅行になるだろう。

僕は中国の南の出身で、冬は雪が少なく降ってもあまり積もらない。雪が大好きな僕は小さい時から、雪一面銀色の世界で、スキーができたという夢を抱いていた。中国にいた時、なかなか実現できなかった、小さいけど、この美しい夢は WINのおかげでやっと叶った。

今年の2月、「王子製紙・米子工場見学と大山スキー旅行」の幕が開いた。今回のスキー旅行は各国の留学生が計30名ぐらい参加した。出発は朝の3時で、早いけど興奮していて、前の夜からなかなか眠れない人がいっぱいいた。

まず、今回の旅行の第一の目的地である米子工

場に着いた。一般にはなかなか見せてくれない、りっぱな工場で、日本一の紙を作っているそうだ。工場の方は、紙の主な材料になっている木のチップの栽培から紙の出来上がりまで、いろいろ詳しく説明してくれた。普段使っている紙が、そんなに手間がかかって初めて出来上がるとわかった時、紙を作ってくれている工場の人たちに感謝する気持ちでいっぱいになった。

工場見学を終えてから、ようやく本番のスキーの時間になった。雪の世界に身を置いた時、言葉で表せないほど気持ちがよかった。雪の新鮮さが漂っている空気を吸いながら、心身ともにスキーの準備に入った。

初めてだからスキースクールに入って、現地の先生に教わった。まったく素人のせいで、一番簡単なトレーニングもうまくできず、何度も何度も転んでしまった。転んだり起きたりしながら、次の日にうまくなってきた。先生が教えてくれた「ハ」の字を作って、やっと頂上から下まで滑れるようになった瞬間、最高の気持ちに達した。スキーに乗って降りていく時、まるで鳥になって飛んでいるような気がした。そのやっと成功した気分をじっくり味わう余裕もなく、その調子にのって何度も何度も滑った。

楽しい時間が経つのはいつも速すぎると思われるが、夕方、僕たち多国籍のスキー団は惜しんでスキー場を離れた。だんだん見えなくなるスキー場に、バスに乗った僕は心の中で、「さよなら」のかわりに黙々と中国語で「再見」を言った。「また会いましょう、スキー」



WIN 合衆国

牟 潤宏 (中国)

合衆国といえば、頭の中にすぐアメリカ合衆国、スイス連邦などの概念が出てきますが、「WIN 合衆国」ってどの国ですか、と不思議に思われるでしょう。確かに WIN 合衆国という国はありません、しかし和歌山にこの WIN 合衆国が存在しています。こう言ったら、留学生の皆さんが一番よく知っていると思いますが、そうです、私という WIN 合衆国とは和歌山の NPO 組織の一つ、WIN コンコードの事です。一番留学生の立場になって、大変学生生活を支援してくださっている NPO 団体です。私たち和歌山県下の留学生は今この WIN 合衆国の国民として幸せに暮らしています。

一人で外国に留学したことがある方ならよくご存知だと思いますが、学生生活はとても大変です。その中でも家族離れの孤独感と生活の不安定が一番つらいです。ある人は学生生活をカタツムリ式生活に比喻しているそうです。意味はカタツムリのように、どこに行っても常に「家」を背負っているということです。そうです、家といえば、留学生にとって、住むところを探すことが一番難しいです。今まで母国でまったく触れたこともない日本式の部屋レンタルに悩まされた留学生が大勢います。礼金、敷金、保証人とか、頭が痛いほど名目が多いです。大丈夫！WIN 合衆国で部屋探しの問題を解決してくださる方がいらっしゃいます。WIN コンコードの皆さんは毎年留学生の引越しと入居に関して、大変いろいろ苦労して、お世話してくださいます。いまたくさんの留学生が WINのおかげで、設備がよく、家賃が安い家に住んでいます。これだけで

はなく、生活に必要な電気器具もただで貸してもらえます。さらに引越しも全部 WIN コンコードの皆さんにしていだけます。この WIN 合衆国で、私たちはカタツムリ式の生活とさようならでき、心強く楽しく暮らせるようになりました。

「WIN コンコードのことはこれだけで

すか？」と疑問を持っている方がきっといらっしやると思いますが、もちろんこれだけではないですよ！

WIN 合衆国には年中行事も多いです。春爛漫の和歌山城での花見、新入留学生の歓迎パーティ、花火大会、ぶんだら踊り、キャンプ旅行、スキー旅行など、ほとんど毎月さまざまなイベントに取り組み、私たち寂しい留学生生活に数え切れない楽しさを与えてくれています。私たち留学生はこれらのイベントを通して和歌山の地元の人々と接触し、和歌山の独特な文化に触れることができます。これは留学生にとって、何よりも効果的な異文化の勉強でしょう。

WIN コンコードは十何年間もずっと留学生のために頑張ってきています。世の中の人々にあまりよく知られていなくても、ただひたすらできるかぎり「WIN」という力を尽くして、各国からの留学生によりよい生活環境を提供するように、頑張っています。これは WIN コンコードの主旨でもあるようです。WIN コンコードの皆様はまるで民間の「隠れ平和使者」のように、何も利益を求めずに、和歌山人の素朴さで、和歌山の優れた文化を私たち留学生に伝えています。誠に勝手なことですが、ここで私はあらゆる WIN のお世話になっている留学生を代表して、一言感謝の意を表したいです、WIN コンコードの皆さん、本当にありがとうございます！これからもよろしくお願いいたします！

※この原稿は2004年1月31日に開催された第一回学長杯留学生による日本語スピーチコンテストでの発表スピーチです。



2004 年の成人式

アザウイトラ ザイナル (マレーシア)



マレーシアで日本の文化と日本の祭りを学んだ時、成人式という文化を学んだ。その時まだ18歳でしたが、日本へ行ったら20歳を超えていて、多分間に合わないと思っていた。

しかし、昨年12月に市役所から成人式のはがきをもらってとてもうれしかった。和歌山市の成人式は1月11日にある、ちょうど学校の始まる前の日だった。その日、私と二人の中国人の丁敏さんと時光さんはWINから着物を着せてもらった。前に浴衣を着たことがあるけど、着物と比べて全然違う。着物を着た時は腰がちょっと痛くて、歩きづらかった。しかし、着物がきれいだから、一日着ていてもその苦しさを忘れることができた。

写真を撮った後、和歌山ビックホエールで“二十歳の集い”に行った。受付の所で保険や選挙の権利のパンフレットや記念品をもらった。最初は日本の国歌で、後は和歌山市の偉い人がスピーチをした。その後は二十歳の代表の人たちが舞台上上がって、宣言をした。30分ぐらい音楽とダンスがあって、“二十歳の集い”が終わった。その日はみんなきれいな着物を着ていて、いろいろな色や模様が見られた。着物だけではなく、髪の毛のファッションがいろいろあった。特に髪の毛に花をつける人が多かった。

その日は本当に楽しかった。まるで一つの夢がかなったみたいだ。

ミャンマーからの手紙

ミヤットミヤットサン (ミャンマー)

こんにちは！お元気ですか？私も元気です。手紙を書かなかったけどいつも思い出しています。今冬でしょ。ミャンマーでも乾季ですよ。でも今年は、あまり寒くないです。和歌山では雪が降りましたか。見たい！去年の3月3日に雪がたくさん降ったのを思い出しています。その日私のビデオカメラで撮りました。そのビデオを録画して、“なごり雪”の背景音楽にしました。そのビデオを見て夢を見た気持ちがしました。本当に“なごり雪”でした。こちらでは、雪の代わりにモヤがかかっています。

その他WINからいただいたカセットテープで私の大好きな歌（古い時計）は、家族の皆も好きになりました。私の甥（21才大学生）と彼の友達も好きになりました。彼らはテープを聞いたり、ギターをひいたりしてギターのキィを調べて、出来るようになりました。だから私が歌を教えました。毎日練習しています。クリスマスと大晦日に歌う予定です。

中谷さんと松島お母さんとは、私の携帯電話にメッセージを残してくれたので、今も充電したら声が聞こえますよ。今もお鍋を食べているの？食べたい！食べている学生さんがうらやましい。お鍋を食べた時、私を思い出してくれてますか？

私が帰国する前、書いた“ミャンマーの水の祭り”についての記事は、Newsletterに出ましたか？読みたいです！私の日本語は9ヶ月ぶりくらいなので間違っている所があったら、ごめんなさい。私も頑張って書いたのです。WINの皆さんを懐かしく思い出しています。

もし、今年もスキー旅行をしたら、思い出して下さい。私はスキーも上手なチャンピオンでしたから。毎年ミャンマーから和歌山大学へ留学生が行っているのは、いいですね！

一年間いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。では、また……
会いたい！いつ？どこで…？



新留学生紹介

李 洙沄 (韓国)

私は韓国から来た李洙沄(イースージン)です。韓国第三の都市大邱から来ました。慶北国立大学校教育大学院の2年生です。大学院で日本の近代文学の『芥川竜之介』という作家について勉強しています。卒業したら日本語の先生になりたいです、いい日本語の先生に。私にとっては日本は東京だというイメージが強くて、和歌山という都市は不慣れな感じがあるところでした。でも和歌山城の桜、海辺の波、涼しい風、青い空など、自転車に乗って和歌山の自然を楽しむことは私の趣味になりました。だんだん和歌山の魅力におぼれるようになってきています。私は日本で暮らすことが初めてですから日本に来る前に緊張しましたが、WIN コンコードや和歌山大学の先生や学生たちの暖かい心が私のそばにありますから、毎日毎日幸せです。また会館の友達の笑顔によって私の日本での生活は楽しいです。この幸福の力を得て、元気なスージン、明るいスージンになります。どうぞよろしくお願いします。

朴 英錦 (中国)

中国吉林大学の経済学部から来た朴英錦と申します。吉林大学和歌山大学の1年間の交換生として和歌山大学で勉強します。この1年間みんなといっしょに仲良く暮らして行きたいです。

故郷は黒龍江省海林市海南郷山河村です。私の故郷はとてもきれいです。山も多く、川もきれいなので山河と名付けたそうです。特に冬になると雪がいっぱい降りとてもきれいです。家には父と母と三人の姉がいます。父と母は農民で、三人の姉は全部働いています。小さい時から家族いっしょに幸福に暮らして来たので今もその時が懐かしいです。趣味はいろいろありますが、一番の趣味は歌と漫画とビデオです。歌は聴くのも好き歌うのも好きです。暇がある時には漫画を見たりビデオを見たりしながらのんびりしています。

私は中国では金融専門でしたがこちらでは経済学を勉強しています。和歌山大学へ留学できてとても喜んでます。日本に来る前は心配でしたが、来てからはみんな優しくいろいろ助けてくれました。それで安心すると共にとても感動しました。和歌山大学での1年間で日本語のレベルを高めたし、日本の経済や文化も勉強したいし、日本で自分で生活しながら自立性も育てたいと思います。またこちらでいろいろな国の留学生も知ったので、

その国の文化や風俗や考え方なども勉強でき役に立つと思います。将来の人生のために貴重な体験をしたいと思っています。

チェリン ラバ (ブータン)

私の名前なラバです。ブータンから来ました。5ヶ月間三重大学で日本語を勉強しました。これから和歌山大学で経済を勉強します。

私は日本に住んでいて日本語を知ることとはとても大切であることがわかりました。それは多くの日本人が英語を話さないからです。私が経験した例をあげてみましょう。三重大学に来て2日目私はサテイに行きました。しかし帰り道に迷ってしまったのです。30分くらい歩きまわったあと、道に迷ったことに気づきました。そして歩いていた人に道をたずねようとしたのですが日本語が話せないのでもううまくいきません。英語で話してみただけで逃げていくだけでした。結局自分で留学生会館に帰るのに2時間もかかってしまいました。

日本人とコミュニケーションをとるには日本語を話せるようになることが大切だと思います。それにもし日本語が話せたら、旅行したり友達をたくさん作って楽しんだりすることができます。生活はもっと楽しくなるでしょう。みなさん、よろしくお願いします。

ボンメイヨ クリスチャン (ガボン)

私の国はガボンです。ガボンはアフリカの中央にあります。ガボンのとなりの国はカメルーンやギニアやコンゴです。ガボンの首都はリブビルです。ガボンは昔は農業が中心でしたが今は工業が伸びてきました。ガボンの共通語はフランス語です。でもたくさんの方言があります。ガボンには四つの季節があります。ガボンには山と川があり、広い川にたくさんの魚がいます。ガボンの人口は約1,250,000人です。ガボンの宗教はカトリックとプロテスタントとイスラム教です。それからガボンにはたくさんのレストランやホテルや、スーパーマーケットがあります。ガボンの人々は伝統的なダンスを踊ります。また、たくさんの伝統的な料理もあります。ガボンの経済は石油生産に支えられています。大学もたくさんあります。みなさん、機会があったらガボンに来て下さい。

李 雁 (中国)

私は山東師範大学日本語科の3年生、李雁と言います。今まで日本語を2年間勉強しましたが、うまく話せません。私の故郷は孔子と孟子の故郷と同じで山東省済寧市です。

趣味と言えば、私はサッカーと読書と書道が大好きです。外国語を勉強するのは苦しいけれども、今はもうだんだん好きになりました。性格と言うとどんなことをしても真面目にしなければならないと思っています。

しかし失敗談もあります。「どうもありがとうございました」と言われる時「どういたしまして」と答えた方がいいと中国で先生に教えられました。おととい初めて日本に来ました。中国で学んだ日本語を身につけるためにできるだけ使おうと思って、昨日スーパーマーケットへ買い物に行きました。入口でそこのおねえさんに「いらっしやいませ」と言われました。しかし中国で「いらっしやいませ」に対する答えは勉強しませんでした。残念だなと思いました。そのまま店に入りました。しかし、その商品はとても高いので何も買いませんでした。出口でまたそのおねえさんに会いました。彼女はお辞儀をしながら、あまい声で「どうもありがとうございました」と言いました。それに答えて私もお辞儀をしながら、あまい声で「どういたしまして」と言いました。そしたら向こうのおねえさんが笑い出しました。なんで笑い出したの、なにか間違いがあるのかという疑問を持って戻りました。先輩はそれを聞いて、その時は何も言わなくてもいいよと、にやにや笑いながら教えてくれました。

ファンティノ ロサリオ (コロンビア)

私の名前はファンティノ・ロサリオです。コロンビアから来ました。去年 10 月に日本に来ました。6 ヶ月間三重に住んでいましたが、まだ日本語が上手ではありません。今までたくさんの友だちを作りました。これからは和歌山大学で研究します。私の専門は学校経営です。コロンビアで 5 年間美術の教師でした。だから日本で美術教育を勉強したいです。今一番したいことは日本の文化を知ることです。

ショート ダミサー (タイ)

私はショート・ダミサーと申します。ニックネームはエーンです。タイのチェンマイから来ました。チェンマイはタイの北方にあります。私のいなかにはチェンマイの南にあります。サラビーという所です。チェンマイはきれいな都市で昔からお寺がたくさんあるので、毎年外国から旅行者がたくさん来ます。家にはねこが 15 匹いるので毎日私はいそがしかったです。ねこたちにえさをやったり一緒にあそんだりしました。疲れましたが幸せでした。今一人で生活していてペットが 1 匹もないので寂しいです。将来何になるかはまだ決めていませんが、世界中を旅行するつもりです。いろいろな国へあそびに行ったらすばらしい経験ができると思います。だから私はお金をため始めま



した。小さい時私には日本人の友達がいました。彼女の両親は仕事のためにタイへ来ました。私はよく彼女の家へあそびに行きました。ご両親はとてもやさしくて私の世話をしてくれました。とても印象的だったので、大学に入学したときは日本語学科にしました。

アザム フィトリ(マレーシア)

はじめまして、Mohd Azam Fitri と申します。マレーシアから来ました。和歌山大学の生活は大変だけど面白い。将来私は自動車のデザイナーになりたい。私が日本で勉強したいのは日本の technology、とてもすばらしいと思います。初めて日本に来た時はちょっとびっくりしました。というのは日本の温度はマレーシアの温度とぜんぜん違うからです。日本の方はちょっと寒い。和歌山の人々はとても優しいと思います。ここで私はとても楽しい生活をしています。時々サッカーをします。私はサッカーが大好きです。よろしくお願いします。

ラファエル ルイズ サナブリア (メキシコ)

私はメキシコから来たラファエル・ルイズ・サナブリアと申します。32歳です。メキシコの中学校の先生です。メキシコのアトラコムルコという町に住んでいました。和歌山大学で日本の中学校の教育学について研究しています。先生のプログラムとして文部科学省から奨学金をもらっています。私はイギリス人と結婚しています。妻の名前はカレンです。彼女は和歌山に来たばかりです。暇な時私は本を読むかスポーツをします。特に英語とスペイン語の小説を読むことが好きです。スポーツではサッカーとバスケットボールが一番好きです。日本の小説も読みたいけどまずは日本についてたくさん勉強するつもりです。今、日本語の授業は1週間に2回くらい受けます。ひらがなとカタカナは書くのと読むことはできますが漢字はまだです。今は漢字を勉強しているところです。日本語の文法ももっとたくさん勉強しなければなりません。今はだいたい日本のことが好きです。それから今まで京都、名古屋と大阪を旅行しました。冬には長野でスノーボードをしました。しかしそれではまだまだ十分ではないと思います。他のきれいな所も旅行したいです。

ティティン ファティマ (インドネシア)

皆さん、こんにちは。はじめまして、インドネシアから来ましたティティンと申します。去年の10月に日本に来てもう7ヶ月ぐらい和歌山にい

ます。最初は研究生として和歌山大学で研究していましたが今年の4月からシステム工学科の大学院に入ってあと2年間和歌山にいます。

実は高校時代から日本に来たかったです。どうして？日本では文化と技術が良い関係にあると思いました。そして日本に来てやはりその通りでした。日本の生活はとても楽しい。便利な物がいっぱいあるし、環境がきれいだし人々は優しいです。友達もたくさんいます。日本の友達だけでなく留学生の友達もたくさんいます。いろいろな国から来た人々と一緒に日本の生活をやっていることはとてもおもしろいです。外国人として一番の問題は日本語と漢字、初めて来た時は全然日本語が話せなかったです。頑張ったので今は少し会話と漢字ができます。あと2年頑張ります。皆さん、よろしくお願いします。

タンダー マン (ミャンマー)

私はタンダーです。高等学校の教師です。ミャンマーから来ました。和歌山大学で物理教育を研究します。和歌山に来た時 WIN ボランティアグループの人たちはあたたかくむかえてくれました。日本人はやさしいあたたかい心をもっています。私は日本が好きです。日本にいるあいだ私はとてもうれしいです。そのときのことを忘れません。みなさん、いろいろどうもありがとうございます。機会があったらぜひミャンマーに来てください。

呉 美鈴 (台湾)

台湾から来た呉美鈴です。和歌山大学経済学研究科で研究生として勉強しています。日本留学は学生時代からの夢で、友達の日本留学生生活を聞くと羨ましくてたまりませんでした。今年の4月やっと自分の夢を実現して日本に来ました。先輩によって WIN コンコードを紹介していただきました。ホームステイの手配から、部屋探し、家具の支援までいろいろ助けていただき本当にありがとうございました。WIN コンコードのおかげで安心して留学生生活を始めました。和歌山は大都市ほど賑やかではないが、親切な人がたくさんいて人間味豊かなところだと感じました。ここへ来て本当によかったと思います。



引き出しの奥のアルバム

オデーゴフ イェゴール (ロシア)

いよいよ 26 歳で僕の学生生活が終わろうとしています。これからは社会人として新しい展開が待っていると思います。3 年近く住んでいた大好きな和歌山を離れる日が近づいてきました。引っ越しの準備のため引き出しの奥にしまっていた大量の写真を整理することになりました。アルバムのページをめくる度に手が止まります。和歌山に着いたばかりの自分が別人のようですから。それは 16 キロ痩せたためだけではないですよ。

和歌山大学大学院経済学研究科の研究生として一年、入試の混乱を巻き込んだイェゴール危機勃発、激痩せ、三回連続で指導教官・ゼミを変え、正規学生として入学することが出来ました。いろいろありましたね...

そして今春の僕は 2001 年 4 月の僕と全然違います。僕がこうして変わったのも僕がこうやって頑張れるのもあなた達が励ましてくれるから、あなた達が一緒に居てくれるから一生懸命にやれたのだと思います。そして僕達は、離れ離れになってしまうわけではないのです。だって人間は自分の記憶と離れることなんてできないのですから。ありがとう!!!

大 飛 躍

徐 勤星 (中国)

来日して、もうすぐ一年になる。知らないうちにこの一年間が過ぎて、帰国の時刻も近づいてきた。が、一年間の留学生生活を振り返ってみると、気持ちは複雑になった。日本でいろいろなことを勉強できて、自分の人生にとっては、収穫の多い一年間であった。

中国と日本は文化が違ふとよく言われるが、教育も例外ではない。中国の大学で、教科書を見て先生の説明を受けて、言われたままに勉強することに慣れた私にとっては、日本の大学生活になかなか慣れなかった。和歌山大学教育学部の授業で、先生は学生にアドバイスして、勉強したいことをさせて、決まっている答案もない。だから、学生は自分から積極的にやらないと、損をするのは自分しかいない。しかし、私にとっては受動から主動に変えるのは大変であった。何といっても、頭の中で固まっている考え方を変えるのは容易なことではない。大変時間がかかったが、それなりの値打ちがあって、自分にとっては成長の大飛躍で

あった。今になって、学校だけでなく、社会に出ても何でも自分が積極的にやらないと、人生の価値どころか、生きることさえ難しくなるとつくづくと感じた。

この短かった一年間でいろいろ勉強したが、勉強していないことがまだいっぱいある。だから、帰国しても日本語の勉強のみならず、人生の勉強も続けていこうと思っている。最後に、お世話になって、いろいろ教えてくださった方々に心からお礼を申し上げます。この一年間いろいろ本当にありがとうございました!

どんなに遠く離れても

オユンダリ ツェンド (モンゴル)

春が 3 回も回って来ました。気がつけばもう卒業です。和歌山で過ごした時間を振り返って見ればいろんなことがありました。いい思い出もたくさん作りました。<楽しかったねえ。>

和歌山に来ていた留学生を暖かく迎えてくれる WIN CONCORD の皆さんに心から感謝しています。桜が咲く季節に初めて皆さんに出会い、また桜が咲き始める頃皆と別れて行きます。別れる時は皆寂しいですが、皆がどこにいても連絡があって、お話しが出来ます。どんなに遠く離れても友情には距離がないです。世界中のどこにいても気持ちはつながっています。これから来る学生もきっと良い思い出をたくさん作って、感謝の気持ちいっぱい帰れると思います。

皆さん、いつも暖かくして支えてくれてどうもありがとうございました。

また、いつかどこかでお会いしましょう!

卒業生と在学生の留学生などの 伝言コーナー



<http://www.wakayama-info.net/board/>

※まず、登録して下さい。

名前・メールアドレス・パスワード (8 桁)

パスワードは自分専用番号を付けて下さい

※ログインの時、名前とパスワードが必要です。

ラウの家に行ってきました

中田 達己・博子



昨年末、29日から明けて1日までマレーシアのラウ（過年度経済学部修士課程終了）のお家に行ってきました。2泊3日の非常に短い日程でマレーシアをかすめた程度の超駆け足旅行でしたが、ラウの案内のおかげで厳選されたポイント観光をしてきました。マレーシアはマハティール前首相の近代化政策が効を奏したのが、東南アジアでは政治及び経済面においてかなりの発展をとげ、安定した国の一つです。首都クワラルンプールはこれが東南アジアかと思う位お洒落で清潔な近代都市でした。とりわけ、有名なツインタワーの夜景は圧巻でした。それから歴史の街、マラッカとクワラルンプール近郊の高原リゾート、ゲッティンハイランドに連れてもらいました。

ラウの家はクワラルンプールから車で約一時間位の郊外、バンギーという小さな町にあります。現在彼女はクワラルンプールに在る日本商工会議所に勤務しております。主に日本から進出した企業のお世話をしているそうです。彼女のお母さんはその町でコーヒーショップ“？”を営んでいます。“？”の意味はその隣に間仕切り無しで伯母さんが中華料理を作っていますし、昔懐かしい駄菓子屋さん風のスタイルで菓子類も売っています。お父さんも商売をされています。私達が訪れた間、運転手兼案内人となって下さいました。家族は前述の両親と彼女の兄弟なんと5人で、結婚している長男以外6人がそのコーヒーショップの裏の居宅に住んでいます。合計2人の我が家から見れば、うらやましい限りです。帰国の日の夕食に、長男夫婦を含む全家族が集まって下さり、例のコーヒーショップで夕食と共に頂きました。これは彼女のお父さんが招集をかけたのか、はたまたこれが日常なのか定かではありません。ちなみに、ご長男の結婚式に900人もの出席者が居たそうです。

非常に短い日程でありわかった様な事は言えませんが、東南アジアの発展に目を見張らされたのと、彼女の家族の心温まるもてなしに感激した次第です。

最後に私共の留学生に対するささやかな活動が、更なる国際交流に繋がって行く、それを実感できたことについて喜びを禁じ得ません。

2003年度 活動経過

- 4月6日 新入生歓迎花見（和歌山城）
- 5月18日 和歌祭り
- 5月25日 WINコンコード総会・交流会
- 7月20日 港まつり花火大会
- 8月2日 紀州ぶんだら踊り
- 8/23～24 サマーキャンプ 清水町
- 9月24日 企業見学
- 10月13日 第7回留学生の故郷を語る集い
（ベトナム、ロシア）
- 11月9日 大学祭 模擬店協力
- 11月17日 後期新入生歓迎会
- 12月7日 八朔狩り・植物公園緑花センター
- 12月23日 忘年会（熊野詣の衣装を着る会）
- 1/1～3 お正月（ホストファミリーのホームパーティ）
- 1月18日 白浜・すさみ町日帰り旅行
- 2/23～24 王子製紙・米子工場見学とスキー
大山（豪円山・中ノ原スキー場）
- 3月6日 第8回留学生の故郷を語る集い
（ポーランド、中国）
- 3月25日 卒業生を送る会
- 年間 住宅紹介・入居・転居の支援
生活用品の貸与、生活情報提供
ホストファミリープログラム

WINのホームページ

<http://www.wakayama-info.net/>





マニラの民族衣装



毎年の和歌祭を楽しむぞ！



ペルーの踊り



会館のG3?



タイのダンス



マレーシアのザート



♪ 世界に一つのだけの花 ♪



熊野古道を歩こう！



ぶんだら踊りに行くゾ！



さあ、俺が先に乗るぞ！



蜷燭のダンス (タイ)



今日は全部売り切ろう！



いらっしやいませ！ 美味しいよ！



次に、ロシアの気候は...



大根は体にいいよ！



スキー旅行の夜



ちょっと休憩



どうやって分けるかな？



今夜のお鍋はうまかった！



やっと卒業できた！



上手に琴を引けたヨ♪



さあ、勝負しよう！



やっぱり、白浜はいいなあ！

WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

WINコンコード事務局

〒640-0103 和歌山市加太2201-339
TEL073-459-3888 FAX073-459-3889
HP : <http://www.wakayama-info.net/>
E-mail : win@infonet.co.jp